

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|---------------|
| 事業所番号 | 2894000203 | | |
| 法人名 | 株式会社JAWA | | |
| 事業所名 | 街かどケアホームそよか | | |
| 所在地 | 姫路市大津区勸兵衛町1丁目26番 | | |
| 自己評価作成日 | 平成27年6月15日 | 評価結果市町村受理日 | 2015年 11月 27日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.jawa-jp.com/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西 | | |
| 所在地 | 兵庫県川西市中央町8-8-104 | | |
| 訪問調査日 | 2015年 6月 30日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ノーマライゼーションの考え方にに基づき、認知症があっても、当たり前のようにその方がその方らしく過ごす日常生活のあり方に日々真剣に取り組んでいる。施設や職員の都合のタイムスケジュールとならないよう、またご利用者が出来る事・したい事を職員が奪わないように、その時その時ご本人の気持ちやペースを大切にしている。また、ホスピタリティの精神のもと、心からのおもてなしの気持ちで声に出されない真のニーズにもお応えできるように努めています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は、可能な限り希望の時間に入浴できる、玄関の生け花を任される、食後のお盆拭きなど家事に参加する等、明るい表情で生活できる環境にある。職員も利用者それぞれのニーズを把握する努力をし、その人らしい日常を尊重して接している。利用者のニーズを具体的に把握して日々の実践に活かせるよう、記録の様式などよく工夫されている。職員同士はコミュニケーションをとって、チームワークよく働ける関係性を築き、連携をとる努力をしている。管理者は職員に、「そよかで働いている事が自信につながり、満足感を持って働き続けてほしい」と思っており、職員の視野を広げて気づきを促したいと考えている。地域とは、納涼祭をはじめとするイベントへの参加以外にも、花や野菜の世話など日常的な関わりがあり、地域に根付いた事業所になってきている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | アーマライゼーションの考え方に基づいた法人理念を大切にし、理念研修に力をいれている。『自分がされて嫌なことは決して他人にしない』という理念には毎日立ち返り、日常のケアの中で実践できるよう心掛けている。 | 研修はテキストを使用するが、主に「自分がされて嫌なことは他人にしない」を中心に伝えている。違和感のある対応については、職員間で注意レベルアップしあえる関係である。定期的な会議でも振り返りを行い、理念を理解して実践できるようになってきている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 提携の農場から届く北海道産とつもちを近隣におすそ分けしたり、地域の祭りや溝掃除など積極的に参加している。また一昨年より納涼祭を開催しており、地域の方も100人以上参加いただく、自治会協賛のイベントになった。 | 散歩や買い物に行った時の、日常的な生活の中でのあいさつなどから、近隣の住民と自然につながりができている。納涼祭の実施で自治会との関係が近くなり、チラシ配布を考えてもらったり、協賛の申し出をうけた。近くの保育園にもチラシを配布して参加を呼びかけている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | トライアルウィークで地域の中学生の体験学習やその他実習生の受入れも積極的にしている。またAEDの設置を活かし、『ひめじ救命ステーション』として登録している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議では、昨年、第三者評価の評価員に参加いただき、評価結果を報告をいただくことで活発な意見交換ができた。また納涼祭の開催にあたり重要案件は運営推進会議で解決している。 | 自治会、民生委員、地域包括支援センター、司法書士、看護師、家族、利用者、職員が参加している。納涼祭は、駐車場の確保やテントの貸し出しなどが課題であったが、自治会の協力で開催することができた。地域交流を促進する目的で話しやすい雰囲気の会議を目指している。 | 報告や資料だけでなく、会議の様子がより伝わるように、参加者の発言も残されてはどうか。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 忌憚のない意見交換を交わしながら、徐々に構築していつている。 | 届出書など書類に関する見解を聞くようにしている。法律改正の時には、依頼して説明に来てもらったこともある。事業所の情報を提供していくなど、なるべく顔を出して、気軽に話し合える関係を目指している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 玄関の施錠をしていないことを家徴とし、あらゆる身体拘束をしていない。場合によってはご家族から安全を得るため拘束する打診があることもあるが、ご本人の立場からご説明することで納得と理解をしてもらっている。 | 家族には拘束しない方針を伝え、リスク回避の方法を説明し、以前よりも理解が進んでいる。家族から、利用者の様子が元気になったと言ってもらえることがある。センサーマットは1人使用しているが、本人のニーズに気づきかけととらえ、その場で本人の意向を把握して対応している。 | |
| 7 | (6) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止法については新人研修で学び、また年に一度研修を実施。また、虐待のニュースがあるたび考える機会を設け、虐待はごく身近にあることを意識している。 | 管理者は職員に、虐待は他人事ではなく、自分の中でも起こりうるということをして、意識付けるようにしている。不適切な言葉かけや態度は、気づいたときに話したり、振り返りの機会を作るようにしている。管理者は職員と、不定期だが個人面談を行い、悩みなどを聞いている。 | |

| 自己 | 者 第三 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | (7) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度を利用する利用者も複数おられるため関係者と話し合う機会も多い。また、外部研修にも参加している。 | 現在、成年後見制度は4人利用があり、後見人には家族、弁護士、司法書士がついている。司法書士は運営推進会議に参加しており、いろいろと教えてもらえる、良い関係にある。法人内で研修があり、職員に伝達研修をしている。新たな利用については相談はない。 | |
| 9 | (8) | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約締結時などでは十分な時間をとり出来る限りわかりやすく説明をしている。また場面に応じて説明をしながら、理解をして頂けるよう努めている。 | 契約時、家族からは退去の条件についての質問が多い。胃ろうやインシュリン注射などの医療行為が必要になって、訪問看護との連携で対応できない時に退去になることを説明している。体験入居をしてもらい、納得してもらっている。 | |
| 10 | (9) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 苦情相談窓口を明確に謳っている。また苦情は小さなうちにご意見としていただけるよう日々のコミュニケーションに注意している。 | イベント後に家族会を開くことで家族の負担を減らし、話しやすい雰囲気になっている。職員負担の軽減のための調理形態変更、という意見が出たことがあるが、レトルトや冷凍に変更はしないという方針で、現状のままと説明した。日々の会話の中で、個人の希望を聞くようにしている。 | |
| 11 | (10) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ホスピタリティ会議にて職員からの提案(ナイスアイデアボード)のあったことを皆で話し合う機会がある。職員の意見や提案はできる限り実施できるよう後押しをしている。 | 月に1回のホスピタリティ会議で、職員の意見を検討している。壁紙に押しピンの穴が多く、改善したらどうかとの提案があり、レールを購入し近いうちに設置する予定である。職員増員の要望は、基準を満たしているため難しいことを説明し、職員の連携や他の工夫を考えるようにしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 法人の人事担当役員は上から目線ではなく現場の意見をよく汲み取りアドバイスをしている。責任範疇を明確にすることで責任をもって仕事に取り組めるようにしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 代表者は管理者の力量を把握し、管理者は職員の力量を把握している。責任や役割を与えながらも、大きな失敗をすることなく業務が進行できるよう適切にフォローするよう努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 管理者は姫路市グループホーム連絡会で役員をつとめた際の成果の一つとして、市内の事業者が空室や緊急入居希望者の情報を共有するシステムを作ることに貢献できた。これまでに何件も緊急入居希望者の受け入れ先を探した。 | | |

| 自己 | 者 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|------|----|--|---|---|-------------------|
| | | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居して間もない時期には利用者もご家族も不安がつきまとうことを考慮し、無理強いない範囲内で色々な声かけやご提案をするように努めている。 | | |
| 16 | | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居直後は毎日近況報告を実施し、ご家族の不安の把握とその解消、そして早期の信頼関係作りに努めている。 | | |
| 17 | | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居相談の時点で、その時に誰が何に困っているのかを広い視野で捉え、入居するしないに関わらずソーシャルワーカーとして専門的な立場で相談に乗るよう心がけている。 | | |
| 18 | | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご利用者が出来る事・やってみようと思う気持ちを奪わないよう、ご利用者お一人おひとりのペースやタイミングでして頂けるよう支援している。その中で得意な事や関心のあることを活かせるよう努めている。 | | |
| 19 | | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族には誕生日やイベントなどには参加してもらい、役割を持ってもらうことで、家族も本人の支援者の一人として認識していただけるよう配慮している。 | | |
| 20 | (11) | | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの関係が継続できるよう、病院や散髪屋、お寺やお墓参り等、馴染みの場所に行けるよう実践している。本人の友人が訪ねて来られた時は特に、また来て頂けるように工夫している。 | 家族から情報を得て、なじみの美容院や喫茶店などに出かけている。友人が来た時は、本人の様子を詳しく話している。連絡先を聞いてイベントに誘い、来てもらえるように支援している。 | |
| 21 | | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の人間関係を把握して孤立したり人間関係がこじれないようさりげなく支援している。例えば食事の場所やタイミングも配慮し、人間関係をみながらテーブル配置を変えたりしている。 | | |

| 自己 | 者 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|----|--|---|---|-------------------|
| | | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了時には、今後もいつでも相談に乗れ、出来る限りの協力ができることを伝えている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | (12) | | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の生活に関する意向(真のニーズ)の把握に努め、介護者の価値観や都合を押し付けるのではなく、ご利用者の立場で考えられるようにしている。 | 本人本位に考えるようにし、できる事をするようにしている。介護計画の中で家族から得た情報から、職員が誕生日のお祝いを提案した。競馬が好きな利用者で、初めて競馬場へ連れて行った。本人はとても喜んでおり、希望に添えたことは職員にとっても喜びとなった。 | |
| 24 | | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時のアセスメントはもちろん、日常の何気ない会話からもこれまでの暮らしを把握できるように全職員で取り組んでいる。 | | |
| 25 | | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ケース記録を毎日記入し、お一人おひとりの情報を職員全体で共有している。介護職員は業務に入る前、必ず業務日誌・ケース記録・連絡ノートを確認している。 | | |
| 26 | (13) | | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月モニタリング会議を実施し、介護計画が現状に即しているか、新たなニーズが出てくるかを話し合っている。また会議では職員一人ひとりが意見を発言しやすい雰囲気作りを行い、色んな視点から考えられるようにしている。 | 家族、職員、ケアマネが参加し作成する。アセスメントは、私らしさ、個性・特性などの項目もあり具体的である。介護計画は現状と一致しているか、実施できる内容かに注意しており、具体性があり月に1度のモニタリングに繋がっている。ケース記録の様式は、個人にあわせて工夫している。 | |
| 27 | | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の気づきをケース記録や連絡ノートに記入し、職員間の情報交換・共有をしている。また会議で実践方法を検討し、その評価もやっている。 | | |
| 28 | | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご利用者のその時のニーズに対して柔軟に対応することが最も大切な事として職員が共通認識するよう努めている。ご要望に応えることが難しいことでも出来ることを提案するようにしている。 | | |

| 自己 | 者三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 施設内サービスだけがご利用者生活の全てではないことを新人研修でも伝えている。また管理者やケアマネを中心に、ご利用者のニーズに地域資源を結び付けれるよう努めている。 | | |
| 30 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居前の馴染みのかかりつけ医にかかっている方もおられる。当事業所の協力医は月に一度訪問診療に入っただいており、何か相談事があれば電話で気軽に相談に応じていただける。 | これまでのかかりつけ医に1名が家族対応で受診し送迎支援は行っている。他科受診や認知症・循環器外来にも受診介助を行っている。月1回協力医による訪問診療が行われ、いつでも相談できる状況で職員の大きな安心となっている。結果は家族にも報告している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師に週2回訪問していただき、日常の健康管理をしていただいている。看護師との情報の共有という課題も一歩ずつ進展しつつある。ターミナルケアの終了後カンファレンスに看護師も参加いただけたことは良かった。 | | |
| 32 | (15) | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には、医師やソーシャルワーカーとも話しあい、早期退院のため退院時期の目標を明確にしている。それにより安心して治療にのぞめ、ご家族にも安心頂いている。またなるべく毎日お見舞いに行くようにしている。 | 入院時には、医療関係者と初回面談時に入院期間や目標の確認を行い、利用者や家族の負担が軽減できるように支援している。長期に及ぶ場合は、退院後の受け入れ先として老健施設の協力が得られる。空室があれば再度入居してもらい家族の安心につながっている。 | |
| 33 | (16) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ターミナルケアにあたり出来る限り早い段階でご利用者とご家族の意向を伺い、出来る事と出来ない事を丁寧に説明し、またかかりつけ医や看護師と連携を図りながらチームとして出来る方法を提案している。 | 重度化対応・終末期対応指針があり、医療関係者や家族と協力しながら看取りを行っている。今年度初めて訪問看護と医療連携のもと看取りを行ったが、勉強会を開催したり、病状について相談ができる事で安心が得られた。看取り後のカンファレンスでは、家族の役割りを振りかえる事ができて次回につながる経験となった。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 職員は救命講習を受講し、急変時に冷静に対応が出来るよう準備している。 | | |
| 35 | (17) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的に避難訓練を実施し非常時の対応が不安の無いよう準備している。夜間想定避難訓練もスムーズに行えるようになってきた。 | 定期的に、夜間想定における利用者参加のもとに避難訓練を行っているが、地域住民の参加までには至っていない。運営推進会議に合わせて訓練の計画を検討している。事業所は、低地で周辺には蓮池が点在する場所から大雨の時は浸水の心配がある。 | 浸水地域として指定されており、行政を交えて地域住民とともに対応策を検討されてはいいかがか。 |

| 自己 | 者 第三 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (18) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ご利用者を人生の先輩として尊敬の念を忘れないよう、まず言葉遣いを正すことで気持ちを正すように努めている。また職員は容易にご利用者のプライバシーを侵す可能性があることを自覚することで、プライバシー保護の意識を徹底している。 | 入浴や排せつ時には、他の利用者の視界に入らないように配慮している。居室はプライベート空間と認識し、入室時はドアをノックして履物を脱ぐなど職員全員が尊厳ある対応を周知徹底している。個人記録類は鍵のかかる場所に保管している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 生活のあらゆる場面で、利用者の自己決定する機会を職員が奪わないように注意しケアに当たっている。またご利用者に希望を言って頂きやすい雰囲気作りのため、職員は忙しそうに見えないように努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員の価値観や都合、タイムスケジュールを押し付けることなく、一人ひとりのペースを常に意識し、日々の生活を共に過ごしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人のおしゃれを支援することも大切な事であると研修で学んでいる。そのためのお手伝いも日々実践している。 | | |
| 40 | (19) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 調理の際はご利用者にも出来る範囲内でやりたいことを一緒にしている。またご利用者の希望するメニューを提供する機会も週に1度確保し実施している。 | 食材は委託業者から調達し、職員が調理を行っている。週1回職員と利用者全員で料理本を参考に献立を考え、希望者は買い物にも行き、季節感のある食事を楽しんでいる。利用者は出来る範囲で調理や後片づけを行っており、職員は食事を一緒に味わっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分や食事の摂取量を把握し、記録している。その上で、ご本人のお好みや習慣を日々情報を蓄積させながら、美味しいものを美味しく食べていただく工夫をしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアに努めている。なるべくご利用者にできることはしていただくことは基本にしている。 | | |

| 自己 | 者三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (20) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄のパターンや失禁の種類を考えながら、出来る限り自立に向けた支援に取り組んでいる。オムツ類代もご利用者の負担となりすぎないように、適切な物を選ぶよう心がけている。 | 個々の排泄パターンを把握して、可能な限りトイレ排泄を支援している。経済的負担軽減のために、適切なオムツやパットの使用を心がけている。夜間においては睡眠の妨げにならない範疇で誘導している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄や便秘の把握についてはご利用者のプライバシーの問題と密接に関係するため、配慮が必要である。その上で可能な限り把握に努め、薬の調整だけでなく食物繊維食品や乳酸菌食品を多く摂ってもらう等様々な方法を提案している。 | | |
| 45 | (21) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 大浴は職員の都合で決めることなく、一人ひとりの希望や状態にあった方法で支援することを心がけている。好みの入浴のタイミングや好みのお湯の温度も把握し、単なる清潔保持だけではなく入浴を楽しむことにも心掛けている。 | 一人一人の習慣や希望に応じて支援を行っているが、介助が必要な利用者には安全も配慮して日中に入ってもらっている。週1回大浴場で入浴したり、しょうぶ湯を楽しむこともできる。拒否がある利用者には、原因を分析し対応方法を工夫している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 起床や就寝のタイミングなどは過去の生活歴や習慣も把握し、その日その日の要望や状況に合わせて柔軟に対応している。また安楽な姿勢保持(ポジショニング)の技術向上にも努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬間違いや漏れがない様、防止策を実施している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 生活の楽しみのためにレクリエーションや大小様々なイベントを企画している。子供っぽい内容にならないよう大人仕様にするよう心掛けている。 | | |
| 49 | (22) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 外出プランとしてドライブや買い物に行くことも多く、またその日の希望で外出することもある。また、普段行けない場所へも特別な時には行けるよう本人の希望の把握とその支援も努めている。 | 姫路城やばら公園、喫茶店などへ出かけ、また希望者は週1回の買い物にも出かけている。誕生日など特別な日には本人の思いや意向を把握して、担当者を中心に個別プランを用意して(墓参り・外食など)外出支援を行っており、利用者の楽しみとなっている。 | |

| 自己 | 者 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|----|--|---|---|-------------------|
| | | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 利用者がお金を持つことも大切な事であると認識しつつ、預かり金を金庫でお預かりしていることを本人にその都度伝え安心してもらえるよう支援している。また、移動パン屋の訪問により、好きなものを買うことの楽しみの支援もしている。 | | |
| 51 | | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話がしたいとのご希望があった場合は、基本的に電話していただく支援をする一方、ご家族の状況も勘案し良い家族関係の継続にも配慮している。 | | |
| 52 | (23) | | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節感のある雰囲気作りに配慮しながら、心地の良い音楽や温度湿度も気を遣っている。「危険だから」という理由でリビングから物を無くし過ぎないように注意している。家庭的で生活しやすい環境を作るように努めている。 | リビングはテーブルとソファが設置され、利用者は思い思いの場所で過ごしている。利用者が生けた季節の花が飾っており、広い窓から見える庭にはスイカやトマトなどが植えられ、食卓に並ぶ時もある。飼い猫がおり、家庭的な雰囲気を醸し出している。 | |
| 53 | | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 気の合う利用者同士が心地よく、もしくは気が合わない利用者同士が苦痛を感じないように、テーブルの配置や逃げ場にも配慮している。 | | |
| 54 | (24) | | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れたものや使いやすいものを持って来ていただけるよう、呼びかけている。また大切なプライベート空間であることの配慮により、居室に入らせていただく場合はノックとお声かけをしてから靴を脱いで入室するマナーを徹底している。 | 馴染みの家具や自分で作ったベッドカバーに囲まれ、その人らしく落ち着いた生活ができている。家族の協力で季節ごとに衣替えを行い、すっきり清潔感のある部屋となっている。各居室には洗面台が設置され、身だしなみを整えることができる。 | |
| 55 | | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 自立支援と安全管理という二つの視点を、行動の抑制をすることなくリスクを減らすという工夫をし続けている。また出来ることを奪わないよう、一度に複数の職員がキッチンに立ちすぎないようにも注意している。 | | |